

【文を短く書く力を鍛えるためのトレーニング】

文を短く書く力を鍛えるためのトレーニングについて解説します。短い文で解答を書くことで解答が明確に伝わります。また、解答として書くことを増やすことができます^{注1)}。

注1)：「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「短い文で解答を書く目的」の資料を参照のこと

1. 「文を短く書く力を鍛えるためのトレーニング」とは

文を短く書く力を鍛えるためのトレーニングとは、自分が書いた技術文書に対して「この文の文字数を減らせないか？」と考えて短い文に修正するトレーニングです。このトレーニングで文を短く書く力を鍛えることができます。

例えば、以下のような文章を書いたとします。

文章Ⅰ：切土補強土壁工事に支障が出ないところまで仮設防護柵を設置する。この設置と撤去は夜間工事で行い現道交通に支障が出ないように努める。別の場所で型枠組立とコンクリート打設を行うことによって基礎工を二次製品化してから現場で据え付けを行う。

文章Ⅰは句点を含めて115文字です。文章Ⅰに対して「各々の文の文字数を減らせないか？」と考えます。そこで以下のように、文字数が減るように各々の文を修正します。

文章Ⅱ：切土補強土壁工事に支障が出ない位置まで仮設防護柵を設置する。この設置と撤去は夜間工事で行い現道交通に支障が出ないようにする。別の場所での型枠組立とコンクリート打設によって基礎工を二次製品化してから現場で据え付けを行う。

文章Ⅱは句点を含めて109文字です。文章Ⅰの各文の表現方法を以下のように修正することで文章Ⅱは文章Ⅰに比べて6文字減らすことができます。

◆第1文（句点を含め1文字減）

前：切土補強土壁工事に支障が出ないところまで仮設防護柵を設置する。

後：切土補強土壁工事に支障が出ない位置まで仮設防護柵を設置する。

◆第2文（句点を含め1文字減）

前：この設置と撤去は夜間工事で行い現道交通に支障が出ないように努める。

後：この設置と撤去は夜間工事で行い現道交通に支障が出ないようにする。

◆第3文（句点を含め4文字減）

前：別の場所で型枠組立とコンクリート打設を行うことによって基礎工を二次製品化して
から現場で据え付けを行う。

後：別の場所での型枠組立とコンクリート打設によって基礎工を二次製品化してから現場
で据え付けを行う。

2. 日常業務の中でトレーニングを行う

2.1 日常業務の中で行う理由

日常業務の中で、文を短く書く力を鍛えるためのトレーニングを行ってください。日常業務の中でこれを行うことでこのトレーニングの成果が必ず出るからです。

教材を読み学んだことをノートに書くときの受験勉強ではあまり成果が出ません。学んだことをノートに書くときには「短い文を書く」という意識を持っていないからです。学んだことをノートに書き留めようという意識の方が強いです。

2.2 修正する文を自分で選ぶ

修正する文を自分で選んでください。「1.『文を短く書く力を鍛えるためのトレーニング』とは」では、参考のため、文章Iのすべての文を対象としてこれらの文が短くなるように修正しました。

日常業務の中で作成した技術文書の中のすべての文を対象にすると修正に時間がかかり仕事が進みません。例えば、業務報告書の中で書いたすべての文を対象に修正したら大変な作業になります。

そこで、作成した技術文書を確認のために読み返したとき「この文は長いな」と思ったところだけを対象にして文が短くなるように修正してください。「○字以上が長い文」という決まりはありません。自分が文を読んだときの印象で決めてください。

2.3 トレーニングで表現方法が身に付く

文を短く書く力を鍛えるためのトレーニングを日常業務の中で継続して行うことで短い文を書くための表現方法が身に付きます。すなわち、文を短く書く力を鍛えることができます。

例えば、「しかしながら、その結果として、国内においても」のようなたるんだ用語を使わずに「しかし、その結果、国内でも」のように書くことが身に付きます^{注1)}。

「文を書く」⇒「文字数を確認する」⇒「確認した文字数以下になるように文を修正する」の繰り返しで文を短く書く力を鍛えることができます。

「たかが1文字、されど1文字」です。「塵も積もれば山となる」です。

【参考図書】

森谷仁著、「マンガでわかる技術文書の書き方」，オーム社，令和4年3月25日

以 上